
10年愛

宇宙 碧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

10年愛

【Nコード】

N6385R

【作者名】

宇宙 碧

【あらすじ】

姉弟のように育った幼なじみのあかし達。

ふとした言い合いの果て、互いが意地を張り合った結果、肌を重ねてしまった…

准の気持ちが解らないまま、あたしは自分から彼を避けて、遠ざけて…

あれから10年…

必然的に再開したあたり達は、アレから先に進めるのか…

発端

「なあ、華…」

お前ってさあ、何気に俺の事好きだったりするだろ？」

あれは忘れもしない、あたし達が高校3年生の一学期。

毎日部活の帰り、自分家には帰らず、必ずあたしん家に寄る准。

特に何かをする訳でもなく、ただ雑誌を捲ったり一緒にゲームをしたり、試験前なら試験勉強したり…

パートに出てるお母さんが戻った後、准は隣の自宅に戻って行った。

「はあなあ？ 答えろって。俺の事、好きだろ？」

夏休みを翌週に控え、進路を真剣に考え出した頃、何故か准は頻繁にあたしにそんな事を聞いて来るようになっていた。

あの頃…

モリモトハナ

ハセベシュン

あたし森本華と幼なじみの長谷部准は四六時中一緒に居た。

家が隣同士で、産まれた時からずっと一緒に居た。

まるで姉弟のように育ったあたし達は、いつの間にか側に居るのが当たり前になっていた。

幼い頃『ほんと仲が良いわねえ…まるで姉弟ね。ううん、姉弟って言うより双子みたい』って周りから言われるのが何故か嬉しくて…

でも…何時からだろう。

双子みたいって言われる事に段々嫌気がさして…
仲が良いって言われる事に抵抗を感じて…

でもあたしは准の側を離れないで…

いつからだろう…
准を意識し始めたのは…

何気に触れる指先や、不意に掴まれる腕や肩…

その時々には心臓がバクバク暴れ出したのは…

自覚したのは多分、中学の卒業式。

式が終わって一旦教室に戻り、最後のホームルーム。

『最後の説教だ、ちゃあんと聞けよお』

担任が少しおどけながら、でもしっかりした口調で話し出す。

クラスの1/3は私立への進学で、後の2/3は公立志望。
公立の試験は卒業式の三日後だった。

殆ど進路が決まらない、宙ぶらりんなあたし達に、それでも担任は
人生とは何ぞやと説く。
目を真っ赤にしながら…

『別々の学校行っても、あたし達友達だよね!!』なんて、ありき
たりのお別れを正門付近で繰り広げるあたし達。

そんな中、女子が群がる一団があつて、何気なく視線をそちらへ向
けると…

その真ん中に准の姿があつたんだ。

ズキンと体のどこが痛んだ。

柔らかな笑顔を周りに振り撒く准が嫌だった。

『あららあ…』

相変わらずモテモテですなあ、お宅のダンナ』

クラスメートのそんな一言で我に返る。

中学2年3年と同じクラスだった准とあたし。

幼なじみという事もあって、いつの間にか“ダンナ”“ヨメ”と周りはあたし達をそう呼ぶようになっていた。

我に返ったあたしと、視線の向こうの准の目が合った。

っ！！！！！！！

射るように見つめられ、あたしはそれに耐えきれず、視線を外した。

『ほら！！帰るよ』

あたしは居たたまれず、そのままクラスメートと学校を後にした。

家に帰るとそのまま自室に駆け上がり、制服のまま、ベッドにダイブした。

「なんで…」

あたしは腕をおでこに当てながら、今し方あたしを襲ったあの感情を思い出していた。

あのモヤモヤした感情は何だったのか…

女子に囲まれる准を見て、イライラしたのは何だったのか…

考えても考えても、解らなかった。

『お前さあ…』

何で先帰るんだよ…』

不意に准の声が聞こえて、あたしは慌てて上半身を起こした。

『パンツ見えてんぞ』

っ！！！！！！

憎まれ口を叩きながら、准はあたしの部屋のドアにもたれ掛かるように、そして、怒っているのか、睨み付けるようにあたしを見ていた。

『なあ、何で先帰ったんだよ』

准はまた同じ台詞を口にする。

「べつ別にいいじゃん。ってか、一緒に帰るなんて約束してないし……」

『はぁあ？約束？
はっ、今更約束？
お前さあ、今までだって約束みたいな面倒臭え事したこと無いのに……今更……』

准は吐き捨てるように言った。

『あっ！！そっか……
お前もしかして……俺が女子に囲まれてんの見て、ヤキモチでも焼いたか？』

「ばっ！！馬鹿じゃないの？何であたしが……！」

あたしは手元にあった枕を、准に向けて思いっ切り投げ付けた。

しかし准は枕の軌道をあつさりと交わし、左の口角を少し上げて笑っていた。

『おつとお、あぶねえ…ってかお前何か機嫌悪くないか？あつ、もしかして生理？』

「っ！！！！！！」

「ばか准！出てけっ！！」

デリカシーの無い准のその言葉に、あたしはベッドから立ち上がると、准を部屋から追い出し、再びベッドに沈み込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6385r/>

10年愛

2011年10月4日19時21分発行